

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	西部地区まちづくり推進事業			事業番号	25-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	都市部	重田 浩光	都市政策課	飯田 裕一	

計 画 (Plan)

総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち		
		基本政策	8	自然と調和した住みよいまちづくり		
		施策展開の方向	1	愛着のある美しいまちをつくる		
		施策	25	地域の個性あふれるまちづくりの推進		
予算事業名	西部まちづくり推進事業費					
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前	～	終了年度	-	
関連法令等	農業振興地域の整備に関する法律、都市計画法、伊勢原市地域まちづくり推進条例					
国・県の計画等	国道246号バイパス(厚木秦野道路)建設事業、県立いせはら塔の山緑地公園整備		計画期間	平成8年度から平成32年度		
関連個別計画	-		計画期間	-		
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	国道246号バイパス(厚木秦野道路)の(仮称)伊勢原西インターチェンジ開設及び一部開園された県立いせはら塔の山緑地公園の事業推進により、新たな交通結節点及び交流拠点が形成されることから、伊勢原市西部地区の活性化を図ることが求められています。					
目的 (何をどうしたいのか)	地区の課題や資源を整理し、地域の魅力再発見や地域のにぎわい創出のための取組を進めます。					
主な対象 (誰・何を対象に)	西部地区の善波地区、坪ノ内地区、栗原地区の住民及び来訪者					
事業内容 (手段、手法など)	・(仮称)伊勢原西インターチェンジや県立公園の整備などを踏まえ、地域特性や課題が異なる地区ごとに地域活性化に向けた取組を検討し、地域のまちづくりを推進します。					
事業行程	項目	年度		28年度	29年度	
		地域活性化の検討	地域資源活用検討	地域資源活用検討	地域資源活用検討	
	まちづくり計画	まちづくりの方向性の検討	まちづくり活動計画の策定	まちづくり活動計画の策定		
	地元組織	研究会の地区別活動の充実	まちづくり活動組織の充実	まちづくり活動組織の充実		
目 標	【指標名】	【現状】	年度		28年度	29年度
			西部地区のまちづくり事業の推進	地域への活動周知	まちづくりの方向性の検討	活動計画の策定



事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	本研究会を通してまとめられた具体的な取組方針に基づき、地区の資源を活用した花木の植樹や、散策路の整備・新設に向けた取組について、自治会や比々多地区観光振興会などの既存組織との連携を踏まえつつ、住民との協働により、実践的なまちづくり活動を推進していきます。		
実施方法 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> すべて直接実施 <input checked="" type="radio"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先
	<input checked="" type="checkbox"/> その他		具体的内容 伊勢原市西部地区土地利用研究会
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	地域活性化の検討	地域資源活用検討	地域資源活用検討
	まちづくり計画	まちづくりの方向性の検討	まちづくり取組方針の策定
	地元組織	研究会の地区別活動の充実	研究会の地区別活動の充実
実施した取組の内容	・3地区(善波、坪内、栗原)毎に住民と協働して、地域まちづくりの課題等を整理するとともに東京農業大学の先生方を交えながら、今後の取組の方向性について意見交換を実施し、次年度以降の取組を検討しました。		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
	西部地区のまちづくり事業の推進	地域への活動周知	まちづくりの方向性の検討
			取組方針の策定

コスト	年度		28年度 実績				29年度 実績			
	事業費合計 (a)			11	千円		103	千円		
内訳	国県支出金 ①		0	千円		0	千円			
	地方債 ②		0	千円		0	千円			
	その他特財 ③		0	千円		0	千円			
	一般財源 (a)-①-②-③		11	千円		103	千円			
国県支出金の内容										
その他特財の内容	受益者負担		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		前回の改定時期					
	その他									
人件費	正規職員		0.30	人	2,595	千円	0.09	人	786	千円
	その他の職員		0.00	人	0	千円	0.00	人	0	千円
	人件費合計 (b)		0.30	人	2,595	千円	0.09	人	786	千円
トータルコスト (a)+(b)			2,606	千円		889	千円			
単位当たりコスト	対象数	定義	伊勢原市西部地区土地利用研究会会員		単位	伊勢原市西部地区土地利用研究会会員		単位		
		対象数	120	人		129	人			
	総事業費／対象数		21,717	円		6,891	円			

評価 (Check)へ

評 価 (Check)

<p>進捗状況 〔選択・記入〕</p>	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	<p align="center">B</p>	<p>左記判断理由</p>	<p>3地区(善波、坪ノ内、栗原)毎に地域住民との協働により、東京農業大学の先生方を交えながら、地域まちづくりに関する意見交換やまち歩きを実施し、地域毎のまちづくりの方向性を検討することができました。</p>
<p>実施水準 〔選択・記入〕</p>	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input checked="" type="radio"/> 一律に比較できない事業	<p align="center">—</p>	<p>他都市事業内容等</p>	<p>伊勢原市西部地区の地域特性を踏まえた、独自性の高いまちづくりの取り組みであるため、一律に比較できないと考えます。</p>
<p>有効性 〔選択・記入〕</p>	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	<p align="center">A</p>	<p>左記判断理由</p>	<p>国道246号バイパス(厚木秦野道路)の(仮称)伊勢原西インターチェンジや県立いせはら塔の山緑地公園の整備進捗により、地域活性化を目的としたまちづくり活動を進める機運が高まりつつあり、地区との協働によるまちづくり活動を推進していく必要があります。</p>
<p>効率性 〔選択・記入〕</p>	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である(C)	<p align="center">A</p>	<p>左記判断理由</p>	<p>地元研究会の活動を通して、地区の資源や住民のまちづくり活動のニーズを把握するとともに、様々な活動団体との連携を視野に協働によるまちづくり活動に取り組んでいます。</p>


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)

<p>事業推進上の課題</p>	<p>地元研究会活動のテーマとなっている「景観を生かしたまちづくり」の実践に向け、地区毎のまちづくりのニーズに即した地域まちづくりの取組を展開していく必要があります。また、まちづくりの担い手を確保するために東京農業大学との更なる連携などにより、学生をはじめとした多様な主体を巻き込んだ活動としていくことが課題となっています。</p>
<p>次年度以降の取組の方向性</p>	<p>引き続き、地元研究会活動を通してまとめられた具体的な取組方針に基づき、地区の資源を活用した花木の植樹や、散策路の整備に向けた取組について、自治会や比々多地区観光振興会などの既存組織との連携を踏まえつつ、住民との協働により、実践的なまちづくり活動を推進していきます。</p>
<p>所管部長による総評</p>	<p>地域住民が地区の特性を十分に把握・理解した上で、地域の将来像を共有し、まちの魅力づくりなどを進められることは、今後の地域まちづくりのあるべき姿と考えます。まちづくりには地域住民の熱意と長い時間が必要になるため、地域が主体的かつ継続的にまちづくり活動に取り組み、着実にまちづくりを進めていく必要があります。</p>